



MDN T2 KIT

55mm MEDIUM DN TACHO instruction manual

まえがき

ご使用上の注意点

キット内容

メーター本体の取り付け

配線接続

-1 配線概要

-2 電源接続

-3 RPM信号入力

-4 温度センサー入力

操作方法

-1 表示機能の一覧

-2 表示機能の切り替え

-3 メーター設定の変更 (ADJモード)

ご使用前に必ず説明書をご覧ください。

05-05-3210

55mmミディアムDNタコメーター

12V汎用品

本書は単品販売品と車種別スピード&タコメーター2連キット共通説明書になります。
本書に記載の構成内容、取り付け方法は単品販売のものであり、2連キットとは異なります。

Produced by **SPECIAL PARTS TAKEGAWA**

① まえがき

この度は、弊社製品をお買上げ頂き有難うございます。

ご使用に付きましては、下記内容をご理解の上ご使用下さいますようお願い申し上げます。

取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。万一お気付きの点がございましたら、お買上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

○取り付けの際には、工具等を準備し、取付け要領に従って十分注意して作業を行って下さい。尚、この取扱説明書は基本的な技能や知識を持った方を対象としております。取り付け等の経験の無い方、工具等の準備が不十分な方は、技術的信用のある専門店へご依頼されることをお勧め致します。

○当製品使用中に発生した事故、怪我、物品の破損等に関して如何なる場合においても弊社は賠償の責任を一切負いかねます。

○当製品を取り付け使用し、当製品以外に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どの様な事柄でも一切負いかねます。

○他社製品との組合せは保証対象外になりますのでご遠慮願います。

○商品を加工等された場合は保証の対象にはなりません。

○性能、デザイン、価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。

○クレームについては、材料及び、加工に欠陥があると認められた部品に対してのみ、お買上げ後3ヶ月以内を限度として修理又は交換させて頂きますが、工賃その他費用は対象となりません。

○この取扱説明書は、本商品を破棄されるまで保管下さいますようお願い致します。

▲注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害が想定される内容を示しています。

○作業を行う際は、必ず冷間時（エンジンやマフラーが冷えている時）に行ってください。（火傷の原因となります。）

○作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。（部品破損・ケガの原因となります。）

○製品およびフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。（ケガの原因となります。）

▲警告 この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

○技術、知識のない方は、作業を行わない下さい。

（技術、知識不足等による作業ミスで、部品破損により、事故につながる恐れがあります。）

○作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。

（作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。）

○点検、整備を行った際、損傷部品が見つかった場合、その部品を再使用せず損傷部品の交換を行ってください。

（そのまま使用すると、部品破損により、事故につながる恐れがあります。）

○エンジンを回転させる場合は、必ず換気の良い場所で行ってください。密閉したような場所では、エンジンを始動しないで下さい。（一酸化炭素中毒になる恐れがあります。）

○走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みの有無を確認し、緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。（部品の脱落等で、事故につながる恐れがあります。）

○走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。

（事故につながる恐れがあります。）

○点検や整備を行う際は、当取扱説明書やサービスマニュアル等に記載されている、要領、手順に従ってください。

（不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。）

○指定した部品以外の部品使用は、一切行わないで下さい。（部品破損により事故につながる恐れがあります。）

○気化したガソリンの滞留は危険性が有る為、通気の良い場所で作業を行ってください。

ご使用上の注意点

[ヘッドライトOFFでの走行禁止 / 保安部品を外したレース用車輛]

ヘッドライト常時点灯車を安易な改造(断線させるだけ)によりライトOFF状態にして走行すると、消費されない電力が車体全体の電圧を上げてしまいます。そのまま走行を続けると、過充電によるバッテリーの劣化や過度の負担により純正レギュレーターが故障してしまう可能性があります。ノーマルよりも高いエンジン回転数で走行するエンジン改造車では、悪影響がより強くなります。ヘッドライトが球切れしてしまった場合は、直ちに走行を止めるか、どうしても走行する必要がある場合はハイビームに切り替えて(光軸も調整して)下さい。この時、なるべく低回転で走行して下さい。レース用車輛ですべての保安部品を外すには、専門的な知識と代替部品や追加部品が必要となります。

H.I.D.キットには品質によりバラスト/インバーター(電圧変換装置)からデジタル回路に悪影響を与える高電圧ノイズが出る製品が多くあり、程度によってはメーター故障の原因となりますので、取り付けしないで下さい。



社外品の点火装置及び、イグニッションコイルやプラグコード、レーシングプラグ(抵抗無しタイプ)は悪影響ノイズの増大により、故障の原因となる可能性がありますので、取り付けしないで下さい。また、点火系部品の劣化も点火ノイズ増大に関係します。

社外品の発電装置は充電力不足によるバッテリー電圧の低下、制御電圧の不具合により故障の原因となる可能性がありますので取り付けしないで下さい。

炎天下での放置にご注意下さい。

長期、野外にバイクを置く場合はカバー等をかけてください。

炎天下の中など、過酷な条件下で長期放置しますと、樹脂やゴム製部品の劣化や変形の恐れがあります。

本製品は完全防水ではありません。

防滴構造ですので雨などの通常の水濡れ程度では内部に水は入りませんが、完全防水ではありませんので水の中に浸すなどすると水が浸入してしまいます。万が一本体に水が入ってしまった場合は直ちに使用を止めて下さい。

また、湿度が高い時、急激な温度変化があった場合などに本体が湿気を吸い込み、パネル内面に曇りが発生する可能性があります。

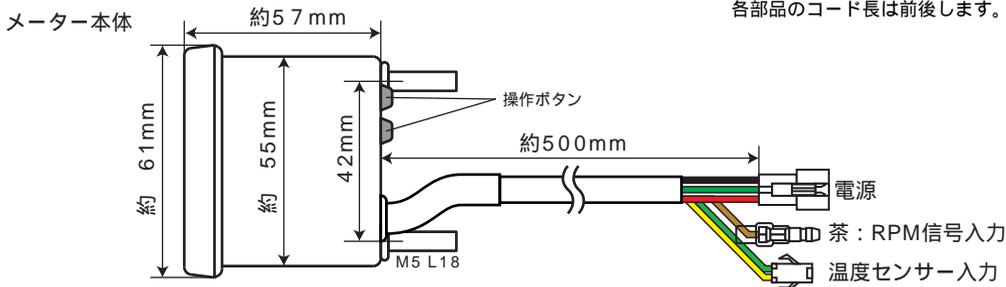
激しい衝撃を与えないで下さい。

オフロード走行やジャンプ、ウイリーなど、メーターに強い衝撃を与える行為は行わないで下さい。

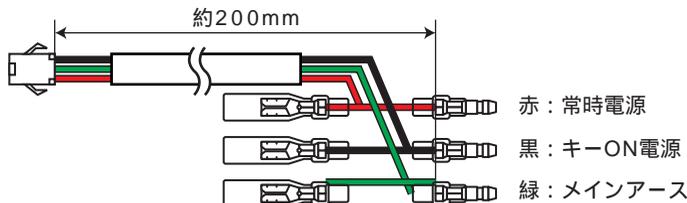
衝撃によっては内部部品の欠落、ボディの損傷の恐れがあります。

キット内容

次ページに続く



電源サブコード



本書は単品販売品と車種別スピード&タコメーター2連キット共通説明書になります。
 本書に記載の構成内容、取り付け方法は単品販売のものであり、2連キットとは異なります。



番号	部品名	個数	リペア品番	入数
1	メーター本体	1	-	-
2	電源サブコード (3Pコネクター)	1	00-05-0145	1
3	メスギボシセット	3	-	-
4	エレクトロタップ	3	00-05-0015	5
5	RPMコードA 2m	1	090-00-0062	1
6	RPMコードB 550mm	1	090-00-0063	1
7	熱収縮チューブ 12×50	1	090-00-0057	3
8	スティック温度センサー	1	07-04-0551	1
9	温度センサー連結コード 900mm	1	07-04-0522	1
10	6角穴付き止めネジ (イモネジ) M3×5	1	BW-00-0030	6
11	Lレンチ1.5mm	1	-	-
12	メーターステー	1	-	-
13	クッションラバー	2	09-01-1018 (セット)	-
14	クッションカラー	2	-	-
15	大径ワッシャー M5用 (5X18X1)	4	00-00-0273	10
16	ナットM5	2	-	-
17	大径ワッシャー M6用 (6X16X1.6)	1	00-00-0227	10
18	タイラップ	2	-	-

リペア品番の記載の無い部品については弊社までお問合せ下さい

-2 電源接続

-3 RPM信号入力

-4 温度センサー入力

メーター本体の取り付け

温度測定用アダプター類各種については弊社カタログにてご確認下さい。

メーター本体の取り付け

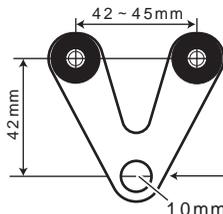


取り付けを誤ると、ボルトおよびナットの破損、脱落等で事故につながる恐れがあります。

本製品は車種別ボルトオン設計品ではありません。取り付けにはステー類の加工やバイク側の加工、工夫が必要になります。

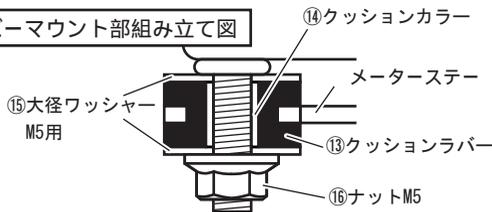
メーターステーの取り付け

- ・ 固定用の穴はM10サイズのネジが通るようになっていました。 ハンドルランプなど見やすい場所に走行中外れたりしないようしっかりと固定して下さい。
- ・ ラバーマウント部の組み立ては右下の図を参考にして下さい。

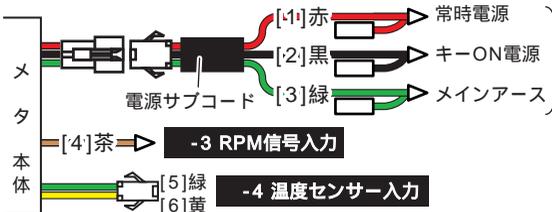


大径ワッシャー M6用
M6サイズのネジで
固定する時は使用して
下さい。

ラバーマウント部組み立て図



-1 配線概要



-2 電源配線

電源電圧：DC13.5V時の電流値

待機時（キーOFF）：約0.7mA

作動時の標準値：約100mA

最大値：約130mA

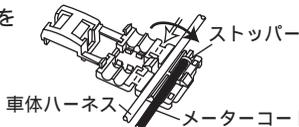
No.	配線色	バッテリー付き車	バッテリーレス車	No.	Color	Function
[1]	赤	DC12V入力（常時電源）	AC12V入力 許容電圧範囲 DC8V～18V (AC9V～20V)	[1]	Red	Battery (DC12V)
[2]	黒	DC12V入力（キーON電源）	AC12V入力	[2]	Black	Ignition-SW on (DC12V)
[3]	緑	メインアース	メインアース	[3]	Green	Main GND
[4]	茶	RPM信号入力（パルス）		[4]	Brown	RPM Signal Input (Pulse)
[5]	緑	温度センサー入力（GND）		[5]	Green	Thermo sensor (GND)
[6]	黄	温度センサー入力（抵抗値）		[6]	Yellow	Thermo sensor (Ω)

[メーター本体]

本製品はバッテリーのDC12V（直流）、AC12V（交流）どちらでも作動可能な回路を備えており、バッテリーレス車でも使用できます。 許容電圧範囲：DC8V～18V、AC9V～20V
最低電圧付近では液晶文字濃度やバックライトが薄くなります。

記録維持は内蔵電池を必要としないフラッシュメモリー式で、長期間の常時電源OFFでも各種記録は維持されます。

エレクトロタップを使った分岐接続



メーターコードのギボシを切り落とし、コードをストッパーに当て[]部分から折り返して下さい。これでコードが仮止めされます。



次に接続端子がついている方を折り返して下さい。プライヤーなどでロックするまでしっかりと押さえて下さい。

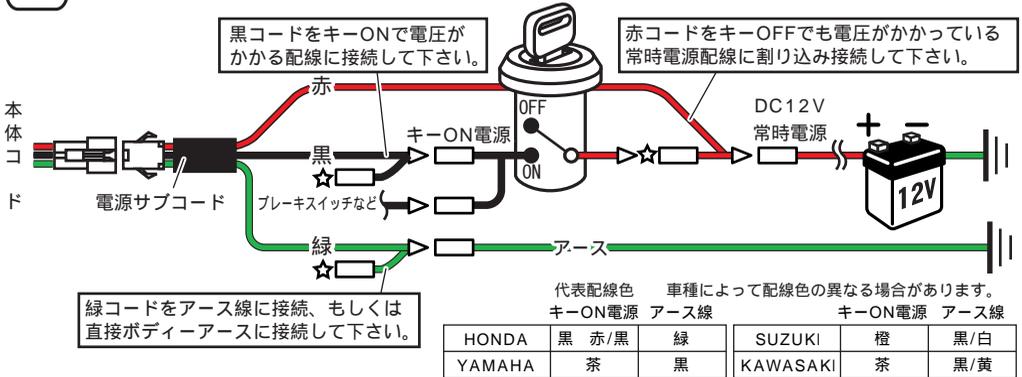
下図はミニバイク等で多い基本的な配線の参考図です。バイクにより接続部品や配線色が異なります。メーター側各配線の意味を理解した上で車体メーカー発行の配線図とよく照らし合わせ、正しく配線を接続して下さい。

メーター側の配線はホンダギボシサイズ(3.5)になっています。車体側にちょうど良い接続箇所が無い場合は付属のギボシ端子を使い接続して下さい。

NOTE ☆のところにDNスピードメーターを接続出来ます。

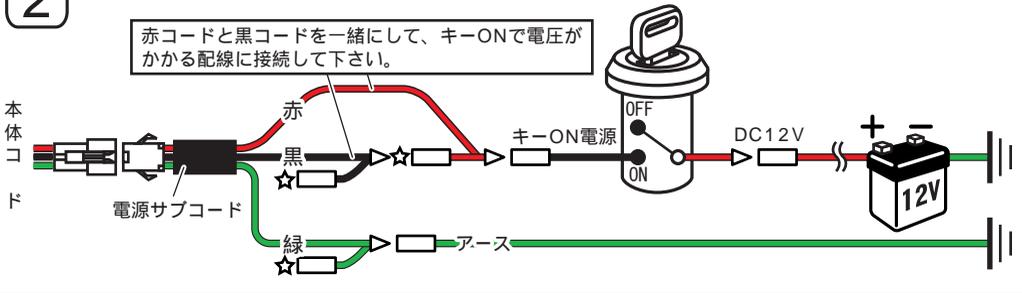
配線 1 DC12Vバッテリー付車・キーON電源 + 常時電源接続 (待機電力あり・全機能使用可)

全ての機能を使用出来ます。キーOFFの間、約0.7mAの待機電力を消費します。



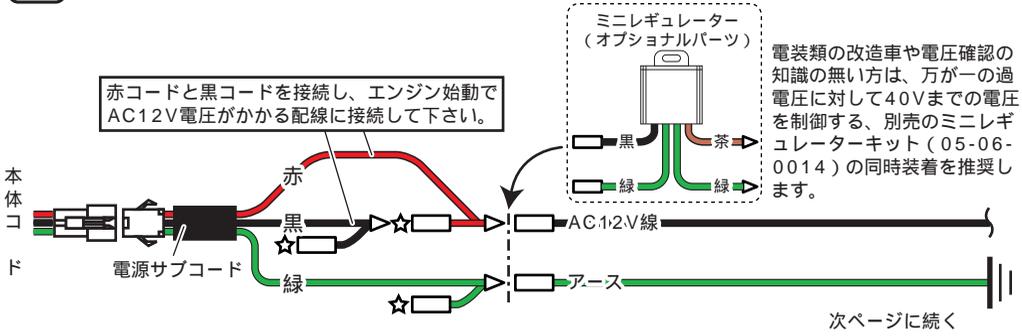
配線 2 DC12Vバッテリー付車・キーON電源のみ接続 (待機電力なし・使用不可な機能あり)

時計機能を使用できません。常時電源利用よりも起動までの時間が長くなります。



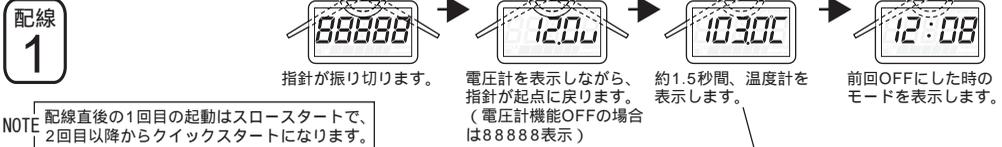
配線 3 バッテリーレス車・AC12V灯火用電源に接続 (使用不可な機能あり)

時計と電圧計の機能を使用できません。エンジンの始動性が悪い時など、不安定な電圧が続くと一時的に指針の起点がずれてしまう可能性があります。再起動時に自動的に補正されます。

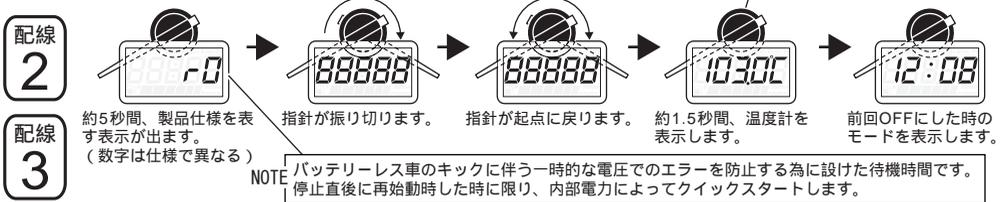


前ページ記載の配線接続方法 ① ② ③ により、起動のスピードと表示内容が異なります。

クイックスタート



スロースタート



DC12Vバッテリー電源接続の注意点

[接続上の注意]

キーONだけで電源が入らない場合はバッテリーの劣化もしくは誤配線が原因です。完全に劣化しているバッテリーを使うと、高回転時、逆に高電圧になるばかりか、過度の負担により純正レギュレーターが故障してしまう可能性があります。常時点灯車でヘッドライトを消すと電装類のバランスが崩れ、高電圧の原因になる可能性がありますのでご注意下さい。

[DC電源とは]

= 直流電源。キーON (エンジン停止状態) 時からエンジン稼働中まで比較的電圧が安定しているバッテリー電源です。車体仕様差はありますが一般的なテスターで電圧を測定すると、キーON時12.5 ~ 13V前後、走行中は ~ 14.5V前後となります。バッテリー付き車でも、エンジン始動に伴い電圧の発生する配線 (ヘッドライトや尾灯に多い) はAC電源となります。

[アドバイス]

・エンジンを停止状態でブレーキランプを点け、さらにウインカーを点けて下さい。点滅速度が異常であればバッテリーが弱っています。

バッテリーレス車・AC12V灯火用電源接続の注意点

[接続上の注意]

エンジン回転数やヘッドライトなど他の電装類の状況により電圧が変動する不安定な電源です。電装類の改造車や電圧確認の知識の無い方は、万が一の過電圧に対して40Vまでの電圧を制御する別売のミニレギュレーターキット (05-06-0014) の同時装着を推奨します。常時点灯車でヘッドライトを消すと電装類のバランスが崩れ、高電圧の原因になる可能性がありますのでご注意下さい。

[AC電源とは]

= 交流電源。エンジン始動に伴い電圧が発生し、回転数により電圧が変動する不安定な電源です。車体仕様差はありますが、いくつかの不安要素 (高回転時の高電圧や、低回転時の電圧不足など) を伴っています。電圧や周波数、波形が安定していないので、一般的なテスターでは正確な電圧を測定出来ません。ほとんどのバッテリーレス車の電装はすべてAC電源です。



注意

他社製アウターローター等の発電装置は、発電電力不足や制御電圧の違いにより、メーターが正しく動作しない原因となります。純正品もしくは当社製アウターローターをご使用下さい。

⑤-3 RPM信号入力

本製品は点火の電気信号（以下RPM信号）を読み込む”電気式タコメーター”です。
バイクによりRPM信号は様々な為、複数の読み込み方法の中から、お客様のバイクに適切な方法を見付けて頂く必要があります。接続方法は3種類あり、接続方法によりメーター設定の変更が必要です。

接続方法の説明ページ (P9~11)

⑤-3A A接続、⑤-3B B接続、⑤-3c C接続

メーター設定の説明ページ (P16)

⑥-3 メーター設定の変更 (ADJモード)

下表は読み込み確認テストの”推奨”順位です。点火方式を認識しているとスムーズです。
点火方式が不明な場合は、[CDI]を参考に作業して下さい。

CDI	DC-CDI	フルトランジスタ	
1 B Hi	1 B Lo	1 B Hi	← 下記の”点火方式の見分け方”を参照下さい。 ← どの点火方式でも、たいていB接続で正しく読み込めます。 C接続よりも配線作業が簡単なA接続を優先し記載しています。 C接続は点火系の改造の影響を受け難く、確実性は高いですが、一部のヤマハ車で読み込めない事を確認しています。
2 B Lo	2 B Hi	2 B Lo	
3 A Hi	3 A Hi	3 C Lo	
4 A Lo	4 A Lo	4 C Hi	
5 C Lo	5 C Lo		
6 C Hi	6 C Hi		

↑ ↑ ↑
順位 ↑ ↑ ↑
メーター設定 ↑ ↑ ↑
接続方法 ↑ ↑ ↑

NOTE 1台のバイクで読み込む方法が1つだけとは限りません。
たいてい2つ以上の方法で読み込めます。
ポイント点火方式には対応しません。

点火方式の見分け方

ポイント点火方式（本製品非対応）以外の点火方式は大きく3種類に分かれます。

CDI	バッテリーレス車や小排気量キャブレター車に多い。	点火用コイルには0.1mm程度の極めて細い銅線が巻かれており、外周は耐熱シートで保護されている事が多い。灯火用コイルは0.8~1mm程度の銅線。	灯火用
基本構造	スターターに点火用コイルがあり、その電力をCDIに蓄電し点火を行う。		
見分け方	★CDIにDC12V電源（キーON）が接続されていない。 ★スターターに点火用コイルがある（右図）。 △フライホイールの突起は1つである事がほとんど。		配線図の図形

DC-CDI	高年式の小排気量キャブレター車や中型クラス以上のキャブレター車に多い。	灯火用のみ	灯火用のみ
基本構造	バッテリー電力を昇圧回路で高電圧化し点火を行う。通称バッテリー点火。		
見分け方	★CDIにDC12V電源が接続されている。 ★スターターに点火用コイルが無い（右図）。 △フライホイールの突起が長く、1つである事がほとんど。		配線図の図形

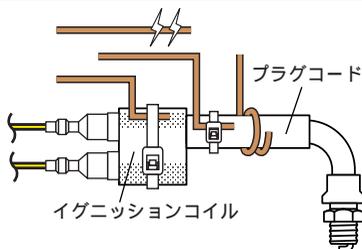
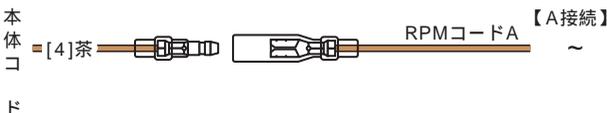
フルトランジスタ	インジェクション車や中型クラス以上のキャブレター車に多い。	灯火用のみ	灯火用のみ
基本構造	イグニッションコイルへのバッテリー電力の通電をトランジスタが制御し点火を行う。		
見分け方	★イグニッションコイルにDC12V電源が接続されている。 ★スターターに点火用コイルが無い（右図）。 △フライホイールの突起が複数ある事が多い。		配線図の図形

よくご質問頂く車両の読み込み方法

車種	エンジン仕様	点火	接続	メーター設定
12Vモンキー/ゴリラ	キャブレター	CDI	共通	A (プラグコードに3巻き) 1 - Hi
エイブ50/100	キャブレター	CDI		B (黒/黄コード) 1 - Hi
XR50/100M	キャブレター	CDI		C (青/黄コード) 1 - Lo
車種	エンジン仕様	点火	接続	メーター設定
モンキーFI	インジェクション	フルトランジスタ	共通	B (桃/青コード) 0.5 - Hi
エイブ50FI	インジェクション	フルトランジスタ		C (青/黄コード) 9 - Lo
車種	エンジン仕様	点火	接続	メーター設定
KSR110	キャブレター	DC-CDI	C (青/黄コード)	1 - Lo
シグナスXF	インジェクション	フルトランジスタ	B (赤コード)	0.5 - Hi
アドレスV125 (K5~K7)	インジェクション	DC-CDI	A (プラグコードに3巻き)	0.5 - Hi
				B (黒/青コード)
アドレスV125(K9)/V125S(L0)	インジェクション	フルトランジスタ	B (青コード)	0.5 - Hi

A接続は、フルトランジスタ点火方式には対応していません。 点火方式の見分け方は(P8)

【A接続】



メーター本体のRPM信号設定の切り替え操作を行って下さい。

RPM信号回数設定：通常1か2
RPM信号種類設定：通常Hi 不安定な場合、Loを試して下さい。

関連ページ **-3 メーター設定の変更**

小↑信号の強さ↓大

- イグニッションコイル付近のフレームやカウルなど車体側にコードを貼り付け、アンテナ状態で読み取ります。
- イグニッションコイルボディー表面に20mm程度コードを沿わせてタイラップ等で固定。
- プラグコードに20mm～30mm程度を沿わせてタイラップ等で固定。沿わず長さが長いほど信号が強くなります。
- プラグコードに巻き付け、発生した電気で信号を拾います。巻き付け回数を増やすほど信号が強くなります。

の方法で3回転ほど巻き付けると、多くの場合、正しく読み取れます。

トラブルシューティング

指針の上下の動きは安定しているが、実際よりも少ない値や多い値を指す。
「RPM信号回数設定」が合っていない可能性があります。合っていないとちょうど2倍や半分の値を指します。

指針が全く上がらない、高回転側で指針が下がる。
信号が強くなる方法を試してください。

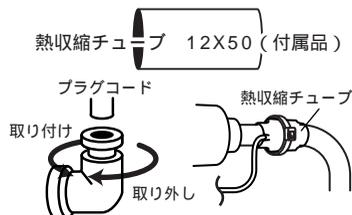
指針が実際よりも多い値を指す。指針が振り切る。
信号が弱くなる方法を試して下さい。

調整により、微妙な数値誤差が生じる可能性はほとんどありません。
正常な数値を表示出来るか、出来ないかはっきりしています。

RPMコードAを絶縁テープなどで仮止めし、軽い空吹きにて作動確認を行って下さい。

警告 RPMコードを仮止めた状態での"実走行"は危険ですでお止め下さい。

- 【A接続】の や でRPM信号入力を採用した場合、付属の熱収縮チューブを使い仕上げして下さい。
- プラグコードからプラグキャップを外します。
 - 熱収縮チューブをRPMコードAの上まで通し、ドライヤーなどで収縮させて下さい。
(収縮温度：90 以上、約50%の内径まで収縮)
 - RPMコードが抜けないようにタイラップで上からしっかり止めて下さい。
 - 最後にプラグキャップをしっかり取り付けて下さい。

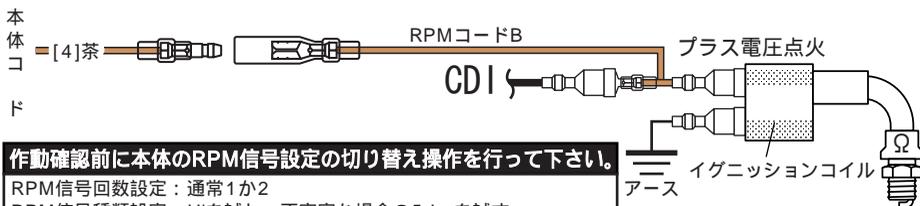


-3B RPM信号入力【B接続】

点火方式により、説明内容が異なります。点火方式の見分け方は（P8）

CDI点火方式

【B接続】



作動確認前に本体のRPM信号設定の切り替え操作を行って下さい。

RPM信号回数設定：通常1か2

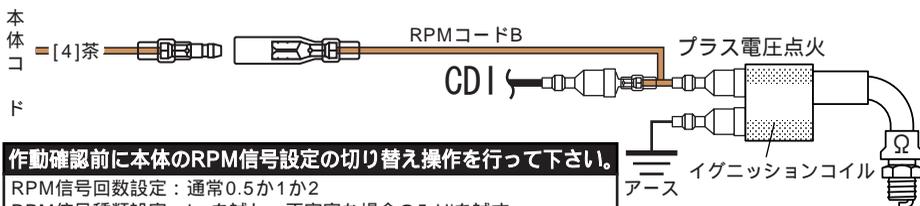
RPM信号種類設定：Hiを試し、不安定な場合のみLoを試す。

関連ページ **-3 メーター設定の変更**

アース線が無い場合があります。
(コイル本体のネジ固定部がアース接続を兼ねている)

DC-CDI点火方式

【B接続】



作動確認前に本体のRPM信号設定の切り替え操作を行って下さい。

RPM信号回数設定：通常0.5か1か2

RPM信号種類設定：Loを試し、不安定な場合のみHiを試す。

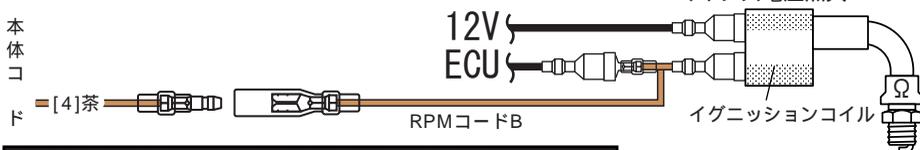
関連ページ **-3 メーター設定の変更**

車種により読み取れない事例があります。

アース線が無い場合があります。
(コイル本体のネジ固定部がアース接続を兼ねている)

フルトランジスタ点火方式

【B接続】



作動確認前に本体のRPM信号設定の切り替え操作を行って下さい。

RPM信号回数設定：通常0.5か1

RPM信号種類設定：Hi

関連ページ **-3 メーター設定の変更**

トラブルシューティング

指針の上下の動きは安定しているが、実際よりも少ない値や多い値を指す。

「RPM信号回数設定」が合っていない可能性があります。合っていないとちょうど2倍や半分の値を指します。

指針が全く上がらない。

「RPM信号種類設定」が合っているかを確認して下さい。

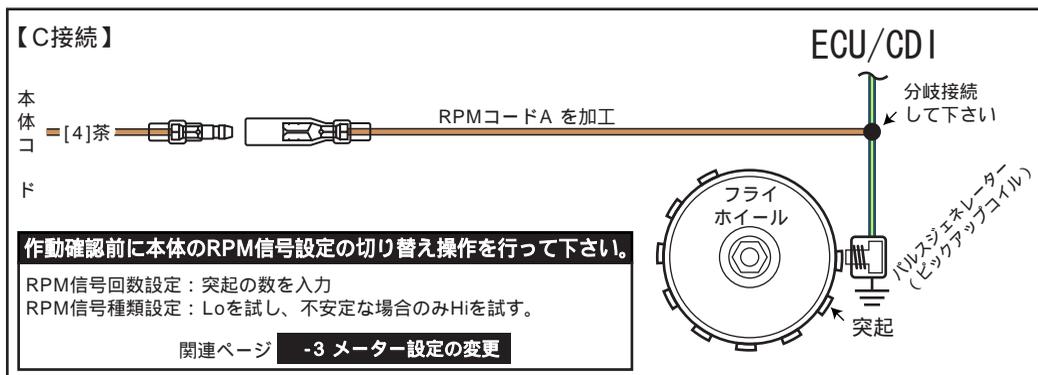
指針が実際よりも多い値を指す。指針が振り切る。

「RPM信号種類設定」が合っているかを確認して下さい。

調整により、微妙な数値誤差が生じる可能性はほとんどありません。正常な数値を表示出来るか、出来ないかははっきりしています。

-3c RPM信号入力【C接続】

接続作業の前にフライホイール外周にあるの突起の数がメーター本体の設定範囲かどうか確認して下さい。
設定範囲：0.5、1、1.5、2、2.5、3、4、5、6、9、10、11、12、17、18、23、24、34、36



RPM信号回数設定の例



トラブルシューティング

指針の上下の動きは安定しているが、実際よりも少ない値や多い値を指す。

「RPM信号回数設定」が合っていない可能性があります。突起の個数と設定値が正しいか確認して下さい。

指針が全く上がらない。

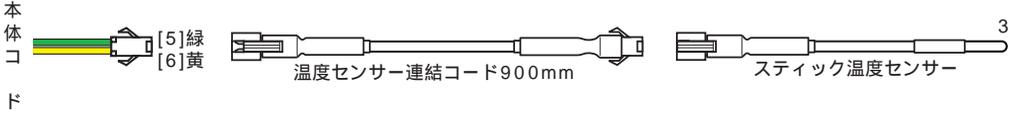
「RPM信号種類設定」が合っているかを確認して下さい。

指針が実際よりも多い値を指す。指針が振り切る。

「RPM信号種類設定」が合っているかを確認して下さい。

温度センサー連結コード、温度センサーの接続

- ・ 温度計の測定範囲は0～120 です。
- ・ 油温計測、水温計測を行うには、別途オプションパーツのアダプター類が必要です。
- ・ 車種によっては、温度センサー取り付け可能なエンジン部品も販売しています。
- ・ 当社カタログにてオプションパーツをご覧ください。
- ・ 温度センサーを適当な位置に固定し、外気温計としての使用も可能です。



ステアリング作動による干渉や走行振動による擦れ、エンジン高温部への接触などで損傷、断線しないように配線テープやタイラップを使いフレームや車体ハーネスに配線を固定して下さい。

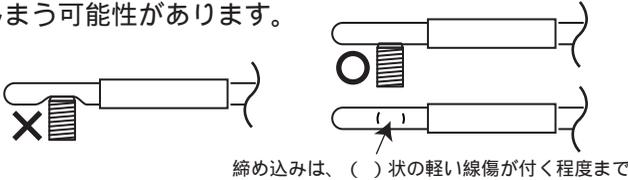
センサー未接続（配線が断線）時は数値が[- - - -C]となります。

- 付属の止めネジは、当社製対応パーツにスティック温度センサーを取り付ける際に使用します。
- ・ 脱着防止の為に止めネジにネジロック剤を少量付け、センサーに軽く線傷が付く程度で締め込みを止めて下さい。



▲注意

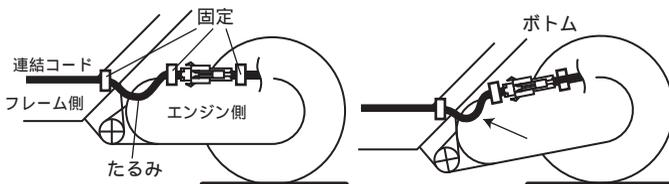
止めネジの締めすぎでセンサー部が大きく変形すると、内部の電子部品が損傷してしまう可能性があります。



破損するとコードの断線又は短絡（ショート）と同じ状態になります。
断線時の表示：[- - - -C] 短絡時の表示：[120.0C]

稼働部配線についてのアドバイス

エンジンは走行中大きく上下に傾きます。上下の可動幅をよく確認し、十分な余裕（たるみ）を持たせて下さい。また、この動きによってコネクターの付け根やセンサー根元に負担が掛からないように配線間を固定して下さい。図の様に"たるみ"の両サイドをそれぞれ固定する事によりエンジンが動いた時、"たるみ"部分の配線が曲がるだけで、コネクタ部にはあまり負担が掛かりません。



温度計オプションパーツ 車種によっては、温度センサー取り付け可能なエンジン部品も販売しています。当社カタログにてオプションパーツをご覧ください。

商品名	MEMO	商品番号
スティック温度センサー（付属品）	武川オリジナル 3スティック形状	07-04-0551
PT1/8温度センサー	PT1/8ボルト形状	07-04-055
M5温度センサー	M5ボルト形状	07-04-0552
ネオジム磁石付アルミドレンボルト シルバー：M12 P1.5	スティック温度センサー対応	02-09-0002
ネオジム磁石付アルミドレンボルト ブラック：M12 P1.5	スティック温度センサー対応	02-09-0003
ネオジム磁石付アルミドレンボルト ブルー：M12 P1.5	スティック温度センサー対応	02-09-0004
ネオジム磁石付アルミドレンボルト レッド：M12 P1.5	スティック温度センサー対応	02-09-0005
ドレンボルトアダプターA2：M36 P1.5	スティック温度センサー対応	07-04-0541
ドレンボルトアダプターA3：M12 P1.5	スティック温度センサー対応	07-04-0542
ドレンボルトアダプターA4：M14 P1.5	スティック温度センサー対応	07-04-0543
ドレンボルトアダプターA5：M18 P1.5	スティック温度センサー対応	07-04-0544
M12シーリングワッシャ	5枚入り	07-040-0001
M14シーリングワッシャ	5枚入り	07-040-0002
M18シーリングワッシャ	5枚入り	07-040-0004
内径 8mmオイルクーラーホースアダプター	スティック温度センサー対応	07-04-0521
水温計アダプター ユニオン径 14	PT1/8温度センサー対応	07-04-14
水温計アダプター ユニオン径 16	PT1/8温度センサー対応	07-04-16
水温計アダプター ユニオン径 18	PT1/8温度センサー対応	07-04-18
水温計アダプター ユニオン径 22	PT1/8温度センサー対応	07-04-22
水温計アダプター ユニオン径 26	PT1/8温度センサー対応	04-04-26
温度センサー連結コード900mm	コネクター間900mm延長	07-04-0522

ドレンボルト M12 P1.5：モンキー・エイブ・KSR110サイズ

トラブルシューティング

[- . . . - C]表示になっている。

温度計回路のどこかが断線している時（温度センサーや連結コードをコネクターから外した時と同じ）の表示です。

温度センサーの接続を外し、連結コードの2極端子を針金などで短絡させ、温度表示を確認して下さい。

[120 . 0C]と表示。温度センサー側の断線（センサー内部の破損など）の可能性が高い。

[- . . . - C]のまま。次に進む。

連結コードの接続を外し、本体コードの2極端子を針金などで短絡させ、温度表示を確認して下さい。

[120 . 0C]と表示。連結コードの断線（コードの損傷）の可能性が高い。

[- . . . - C]のまま。本体内部もしくは、本体コードのどこかが断線している可能性が高い。



針金などで端子を短絡させる。

[120 . 0C]表示になっている。

温度計回路のどこかが短絡している時の表示です。

温度センサーの接続を外し、連結コードの2極端子を針金などで短絡させ、温度表示を確認して下さい。

[- . . . - C]と表示。温度センサー側の断線（センサー内部の破損など）の可能性が高い。

[120 . 0C]のまま。次に進む。

連結コードの接続を外し、本体コードの2極端子を針金などで短絡させ、温度表示を確認して下さい。

[- . . . - C]と表示。連結コードの断線（コードの損傷）の可能性が高い。

[120 . 0C]のまま。本体内部もしくは、本体コードのどこかが断線している可能性が高い。

-1 表示機能の一覧



タコメーター

LCD切り替え表示

- 1 温度計
- 2 時計 (メニュー-OFF可能)
- 3 ワークタイマー (メニュー-OFF可能)
- 4 電圧計 (メニュー-OFF可能)
- 5 最高記録

本体背面に操作用ボタンが2つあります。
文字盤面から見て、左側が「L」ボタン、右側が「R」ボタンです。



L 表示機能の切り替え

日常的な操作は「L」ボタンだけで行えます。
Lボタンの短押しで表示機能の切り替え、
長押しで記録 をリセットします。

ワークタイマー、最高記録

関連ページ

タコメーター	DNモーター駆動。500～16000rpm。 RPM信号回数設定/種類設定機能付き。	-3
温度計	0～120 (0.1 単位)	-4
時計	24時間表示。Lボタン長押しで時計合わせ。 常時電源 (DC12V) 接続必要。メニュー-OFF可能。	
ワークタイマー	～99時間59分 (1分単位)、100～9999時間 (1時間単位) Lボタン長押しでリセット。メニュー-OFF可能。	
電圧計	DC8～18V (0.1V単位、誤差±0.2V)。メニュー-OFF可能。 AC電圧は測れません。確認用にメーター起動時に1.5秒間自動表示します。	
最高記録	タコメーターと温度計、電圧計の最高値を記録。Lボタン長押しでリセット。	
高耐久電源回路	DC12V、AC12V両対応。電圧範囲：DC8V～18V、AC9V～20V DC13.5V時の電流値、待機：約0.7mA、作動標準：約100mA、最大：約130mA	-1～3

メニュー-OFF設定

取り付ける車種によっては使えない機能や、お客様によっては不要と思う機能を隠す事が出来ます。
対応の機能は「時計」「ワークタイマー」「電圧計」の3つです。
メニュー-OFF設定はADJモードで行います。

- 例1) バッテリーレス車は時計と電圧計が使えないので、これらをメニュー-OFFに設定。
例2) スピードメーター側に時計があるので、タコメーターの時計をメニュー-OFFに設定。

関連ページ

-3 メーター設定の変更

例1



-2 表示機能の切り替え



1 温度計

範囲：0～120（単位：0.1）

関連ページ **-4 温度センサー入力**



2 時計（メニューOFF可能）

24時間表示。端数処理機能付き。

常時電源への接続が必要な為、バッテリーレス車などのAC(交流)電源では使用できません。
ADJモードにてメニューOFF設定してください。



3 ワークタイマー（メニューOFF可能）

範囲：～99時間59分（単位：1分）
：100時間～9999時間（単位：1時間）

ワークタイマーとはエンジン稼働時間を計測する機能です。エンジン始動に伴い積算をスタートし、エンジン停止に伴い積算をストップします。
タイマー稼働中は「:」が点滅します。



4 電圧計（メニューOFF可能）

範囲：DC8～18V（単位：0.1V、誤差±0.2V）

バッテリーレス車などのAC(交流)電源では使用できず、不正確な値を表示します。

ADJモードにてメニューOFF設定してください。



5 最高記録（交互表示）

範囲：0～16000rpm（指針）
範囲：0～120（単位：0.1）
範囲：DC8～18V（単位：0.1V）

指針は最高回転数を指し、温度と電圧の最高記録を点滅しながら交互に切り替え表示します。



次ページ

-3 メーター設定の変更

L3 各種設定の変更（ADJモードに入る）

時計合わせは、時計表示中に
Lボタン長押しで、設定モードになります。

L3 → 12:08 ⊕ 値変更 ⊖ 次へ

L3 リセット

100時間までは1分単位 75:25

例) 75時間25分
100時間を超えると1時間単位 0112H

例) 112時間00分～59分

-3 メーター設定の変更 (ADJモード)



L
温度計モードで「L」ボタンを長押しするとADJモードに入ります。

ADJモード内で30秒間の操作無し、もしくは **L** で温度計に戻ります。

1 RPM信号回数設定

範囲：0.5、1、1.5、2、2.5、3、4、5、6、9、10、11、12、17、18、23、24、34、36

クランクシャフト1回転あたりの信号回数 (発火回数)



次へ **L** **R** 値変更



次へ **L** **R** 値変更

注意

RPM信号設定は、RPMコードの接続方法により適合する設定値が異なります。

作動確認前に本体の設定の切り替え操作を行って下さい。

RPMコードの接続方法は
-3 RPM信号入力

2 RPM信号種類設定

範囲：Hiモード、Loモード

読み込みプログラムの種類

3 時計のメニューON/OFF

範囲：ON、OFF

他に時計を装備している方はOFFにしてください。バッテリーレス車の方はOFFにしてください。時計合わせは、通常画面の[時計]で行います。



C=クロックの略

次へ **L** **R** 値変更

4 ワークタイマーのメニューON/OFF

範囲：ON、OFF

バッテリーレス車でも使用可能です。



E=エンジンの略

次へ **L** **R** 値変更

5 電圧計のメニューON/OFF

範囲：ON、OFF

他に電圧計を装備している方はOFFにしてください。バッテリーレス車の方はOFFにしてください。



V=ボルトの略

次へ **L** **R** 値変更

温度計に戻る